

文 部 省
教 育 映 畫 時 報



7

昭 和 六 年 八 月

文 部 省 社 會 教 育 局



始



目次

一、新作映畫解説

發行所寄贈本

陽光と作	二一
五ちゃん	二一
教育映畫評論	二八
教育映畫の興行場進出問題	二八
各地に於ける教育映畫運動の展望	三九
三重縣映畫教育協會の設立	三九
金澤市教育映畫協會の事業概況	四三
宇都宮児童映畫テー上映フィルム	四六
改訂「茨城縣映畫目錄」の刊行	四七
四、文部省製作活動寫真フィルム頒布規程	四八
五、文部省製作活動寫真フィルム貸與規程	五二
六、文部省製作活動寫真フィルム目錄	五七



279-56

新編映畫解説

陽光

この映畫は、昨年度で懸賞募集した映畫筋書の當選作「玉を磨く」を脚色改題し日活撮影所に委嘱して撮影したもので、少年俳優として定評ある尾上助三郎、中村英雄主演になる明るい児童向教化映畫である。

従來の所謂教育映畫が、とかく教化的主題のみを重んじて他を顧みないといふやうな點や、陰慘な悲劇的な扱をして徒らに、少年少女の涙をそゝることのみに終始する憾があつたのに鑑みて、明るい零圍氣の中に映畫的の動きや快適なスピードを多分に盛り、而も主題の教化的意義を十分現はすやう苦心製作したものである。

(筋) 富豪村松家の下男の子國司は、情深い主家の人々に愛せられ子息守の學友として、又遊び友達として幸福な月日を送つてゐた。然し國司には大きな心配があつた。國司の父留吉は固疾の眼病で今は殆んど失明に近い状態だつた。



一、海濱別荘編

- 六、文藝復興の巨匠ミケランジェロの彫刻……………五十一
- 正、文藝復興の巨匠ミケランジェロの彫刻……………五十二
- 四、文藝復興の巨匠ミケランジェロの彫刻……………五十八
- 三、文藝復興の巨匠ミケランジェロの彫刻……………六十二
- 二、文藝復興の巨匠ミケランジェロの彫刻……………六十八
- 一、文藝復興の巨匠ミケランジェロの彫刻……………七十二

發行所 岩波書店



不幸な父を如何にして楽しませるか、それが國司の一番心配することだつた。主家の人々もそれを心配して、いろいろ親切に手段を盡してみたが、留吉の眼は益々悪くなるばかりだつた。

留吉は主家の人達が親切にすればする程、自分の存在を心苦しう思つた。そして彼は一度は死を決して家出をしたが國司の真心こめた言葉に翻然と覺めて、共に扶け合ひ勵まし合つて生活戦線に立つことになつた。父は按摩に子は新聞賣に、やがて國司は貯蓄を基に八百屋を開業したが、彼の無邪氣な熱心な商ひ振りが評判になつて店は次第に繁昌するようになった。

一方主家村松家では、その後主人の急死、破産等打續く不幸の爲に、夫人と子息守とは華かな昔に變る見るかげもない陋巷に喘ぐ運命にあつた。正當に「苦悶」の叫びを發し國司は商賣のかたわら主家の母子を探し求めてゐたが、熱心の甲斐あつて彼等は巡り合ひ、母子を自分の家に引取つて共に稼業にいそしむことになつた。かくして國司の店は益々繁榮し四人は明るく楽しく働くことが出來た。村松母子は初めて、人生の

幸福が決して富や名譽のみでないことを知り、貧しい生活の中に前途の光明を見出した。

陽光を仰ぐ

内容

第一卷

寄せては返す波の音、早春の静かな海岸の砂濱に二人の少年がゴルフに興じてゐる。それを取り圍んだ賑かな一家族、それは實業家村松利彦の一家である。

國司は、この村松家の下男の子であるが、情深い一家の人々によつて可愛がられ、子息守の相手として今年も春休みを主家の人々と共に鎌倉の別邸に來てゐるのだつた。

國司はゴルフに熱中してゐたが、ふと足下に落した手紙に氣がついた。それは東京の本邸に残つてゐる父から來たものだつた。その手紙を見ると國司は不幸な父

のことを想ひ出して、すつかり憂鬱になつてしまつた。球も良くと國司は不意に父やがて、ゴルフに快い疲れを覺えた人々は談笑しながら歸途についた。途すがら村松氏は訊ねた。

「國司君は大きくなつたら何になるかね」可憐な

國司は言下に答へた。

「大工になります」

一同は以外に思つたが、守も負けぬ氣で

「僕はお父様の様な實業家になるんだ」

村松氏は更に國司に訊ねた。

「大工になつて何をするんだね」

「お父つさんに硝子張の明るい家をこさへてやるん

てす」



夫人は想ひ出した様に訊ねた。

「お父さんからおたよりがあつて？」

國司は頷いて先刻の手紙を夫人に渡した。手紙には固疾の眼病がだん／＼悪くなることや、その爲主人に迷惑をかけるのを心苦しく思ふことが書いてあつた。手紙を讀了つた夫人は村松氏に云つた。

「まあ、あなた、あれ程云つてをいたのに爺やは未だ大學病院に行かないらしいわ」「氣兼ねなんかしなくつてもいゝのに」

村松氏も心配して云つた。

「ぢや、國司君も直ぐ東京へ歸した方がいゝだらう」

夫人も優しく國司に云つた。

「お父さんに會ひたいでせう」

話合ひながら歩いてゐるうちに一同は村松氏の別荘に着いた。

村松夫妻は、早速國司を東京へ歸らせて留吉を大學病院へ診察を受けるやうにと

紹介状を書いて渡した。

「これを持って爺やを早く大學病院へ連れて行くんですよ」

守も遊び相手がなくなるので

「早く歸つておいて、僕寂しいんだから」

村松氏は、先刻國司が父に明るい家を建て、やりたいたと云つたのを思ひ出して、一冊の本を取つて國司に渡した。それは綺麗な建築圖のある本だつた。

「これをあげよう、電車の中で見ておいて」

國司は、厚く御禮をのべて別莊を出た。やがて、電車に乗つた國司は偶然にも學校の先生を見つけて聲をかけた。

「あつ！先生」

先生も國司の父の事をよく知つてゐるので

「お父さんの眼はどうです」

「村松君は元氣かね」

國司は父のことや村松一家のことなどを先生に語つた。間もなく、國司は村松家の本邸に着いた。そして邸内にあるさゝやかな我家へ歸つて來た。

「お父つさん、只今」

鎌倉の別莊から歸つた挨拶をして、父の容態を訊ねた。

「少しはいゝかい」

留吉は見えない眼を見はつて何氣なささうに云ふのだつた。中々強ひるなうさ。

「少しはいゝやうだ」

國司は、主人から渡された手紙を出して

「旦那様が是非大學病院へ行けつて仰在つたよ」

といへば、留吉は何時に變らぬ主人の好意を感謝するのだつた。國司はやがて主人から貰つた建築の本を父に示して

「こんな家をお父つさんにこさへてあげるよ」

「中々いゝ家だな」

「中父は子供に失望させまいとして、見えもしない眼をしばたゞき乍ら相槌を打つた。然し、國司が何心なく本を見ると、父はそれとも知らずに倒さに見てるのだつた。國司は急に谷底へ突き落されたような氣持になつた。」

第二卷

留吉と國司は、主家から與へられた紹介状をもつて大學病院を訪れた。須藤先生の綿密な診察の結果は、この哀れな父子の悲しみをとうとう確定的にするものだつた。留吉の眼病は癒る見込のないものだつた。

やがて父子は悄然と我家へ歸つた。國司は寢床に這入つても中々眠れなかつた。

「お父さんの眼が見えなくなつたつて、僕がお父さんの分まで見てやるよ」

國司は希望を失つた父を慰めるのだつた。

「お父さん心配しなくてもいよ、僕だつてお父さんの一人位——」

悲みを抑へて互に慰め合ひ力づけ合つてゐる父子の上に夜はしん／＼と更けて行く。國司は、流石に晝の疲れで眠りについた。しかし、父は行末の事を考へると

眠ることが出来なかつた。考へあぐんだ父は遂に悲愴な決心をした。



「突然、けた／＼ましい犬の鳴聲に國司が目を覺まして見ると、枕を並べて寢た筈の父の姿が見えなかつた。國司は、はね起きて家の中を探して見た。しかし、何處にも父の姿は見えなかつた。そして、枕元にあつたのは二通の遺書だつた。一通は主人に、一通は國司に。遺書には不自由な體の爲周圍の人々に迷惑をかけて濟まないから、家出する旨認めてあつた。國司は激しい不安に襲はれた。彼は急いで戸外へ飛び出して父の行方を探した。不吉な影が彼の腦裡を掠めた。汽車？水？國司は、父が自殺するのではないかと思ふとたまらなくなつた。そして、夢中で「お父ッさん」「お父ッさん」と叫びながら人通の絶

えた夜更の街をどん／＼驅けて行つた。すると、向ふの橋の欄干に凭れて悄然と立つてゐる人影が見えた。それは留吉だつた。國司は夢中で父に縋りついた。父子は抱き合つて泣いて語り合つた。悲歎に暮れた父子に新しい希望が拓けた。

かくて數ヶ月の後、親子は貧しい乍らも獨立の生活を営むやうになつた。留吉は按摩に、國司は新聞賣子に

少年は盲の父をいたはつて雄々しくも生活戦線に立つことになつた。村松一家の慈愛は深いものだつたが、深ければ深いほど父子には却つて心苦しかつたのだ。彼等がほんとうに生きる道は貧しい乍らも父子相扶けて自ら生活を立てるより外はなかつた。國司は自分の仕事が濟むと父の眞似をして父の肩をもんでやるのだつた。今の父子は貧しいながらも平和だつた。彼等の上には明るい希望がひらけた。

「もう少し貯金が出来たら何か商賣を始めようね、お父ッさん」

「そして、うんと儲けて愈々お父ッさんの硝子張の家を作るよ」

「中々うまいな、本職の俺以上だ」

親子はこんな事を語り合ひながら朗らかに笑つた。

第三卷

「再び春の訪れる頃」
 貧しいながらも明るい希望をもつて働く父子の上に恙なく月日は流れた。そして

國司は豫ねての希望通り獨立して八百屋を始めた。國司は毎日朝早くから裏街の顧客を相手に青物の行商をしてゐるのだつた。正直で無邪氣な國司は行く先々の人氣者だつた。

夜は

國司は食事が済むと、眼の見えない父の爲に新聞を読んで聞かせるのだつた。

「お父さん、お邸の皆さんはどうしてゐるだろうね」

國司は氣にかゝる主家のことを父に語つた。父もそれを心苦しく思つてゐたのだつた。

「あんな風でお邸を出てから一度もお伺ひしないのだから何時かお詫び旁々お禮に上りたいね」

國司は別れてから一度も會はない守のことを懐しく思つた。

「若様に會ひたいな——」

「ねえお父さん今度の市場のお休みにお邸へ行つて來ようか」

父子は久々で揃つて、主家を訪ねることになつた。時は春、電車は賑やかな花見客で一杯だつた。

「お花見なんだね」

「櫻が咲いたんだけど今年はお父ッさんは——」

國司は眼の見えない父のことを考へると淋しかつた。留吉はそれを察して

「お父さんは若い時櫻なんどはいくらでも見たよ」

といつて面白さうに昔の話をするのだつた。その時、父子は林邊の某家の某處の「お邸の櫻も今頃は眞ざかりだろうなア！」と、父子は

父子は久々に主家の人々に會へるのをどんなにか楽しみにしてゐたことだろう。

二人はやうやく懐しい主家の門前に來た。二人はやうやく懐しい主家の門前に來た。見ると意外にも、門は堅く閉されて、賣家の札が掛けてあつた。國司は自分の眼を疑つた。然し、何度見直しても同じだつた。國司は餘りにも急激な變り方に胸が込み上げて來るのみだつた。

「お父ッさん、お邸は賣家になつてゐるんだよ」
近所で訊ねるにも人通りのない邸街では仕方がなかつた。父子は折角の楽しみも今は甲斐なく、再び歸つて行くのだつた。

「國司君」

「惘然と歸つて行く父子を呼び止める者があつた。」

それは先生だつた。

「どうしたかと心配してみたよ」

先生は、其の後の様子を訊ねるのだつた。

第四卷

國司は父に先生を紹介した。先生は

「村松君の家もとんだことになつたもんだね、

御主人はなくなられるし、その上破産はするし、

と云つて、種々事情を話した。

先生は父子の様子をいぶかり村松家との其後の

關係を訊ねた。然し、父子は



「私達は何も少しも知りませんでした」

「少しも知りませんでした」

「そうして今皆さんはどこにいらつしやるのでしよう」

先生も當惑した。

「それが 僕も探したんだが、わからないんだ」

父子は先生と別れて淋しく家路についた。國司は父を慰めるやうに強い決心を語

つた。

「僕がきつときつと御二人を捜し出してうちへ連れて来るよ!!」

國司の堅い決心

それからの彼は毎日村松親子の行衛を探し歩いた。

國司は今日も八百屋物を積んだ車を押して裏街を賣り歩いてゐた。すると顔馴染

「あのおかみさんが」

「昨日お前さんが捜してゐる母子に似た人がすぐ近所に引越して來たよ」

國司ははからずも村松母子に會へるかと思ひ、その人の家を訊ねた。

「あたしが連れていつてあげるからお禮に大根の一本も置いていつてお呉れよ」

おかみさんは、冗談を云つて氣輕にその家に國司をつれて行つて病床にある婦人に引合せた。然し、それは人違ひだつた。

「實はこの子供がお前さんたちのような知合ひの親子達を捜してゐるので——」

話好きなおかみさんは、その婦人に種々國司の事を話すのだつた。國司は、人違ひだつたが氣の毒な境遇にある人らしいので商賣物のバナナなどを贈つて慰めるのだつた。

國司は又、通りがりにふと「村松寓」と書いた表札を見つけたので、訊ねて見たがそれも人違ひだつた。しかし人の運命ほど不思議なものはない。國司が尋ねあぐんでゐる村松母子はやはりこの陋巷に生活に喘いでゐるのだつた。

第五卷

村松母子の住居

嘗ては廣壯な邸宅に何不自由なく暮してゐたこの母子は打ちつゞく不幸の爲に今は見るかげもない陋屋に佗住居をしてゐるのだつた。國司父子の貧しいながらも明るい希望に満ちた平和な生活にひきかへ、今の村松母子は何と暗い淋しい生活であらう。

「お母さん、お金頂戴よ」

守は駄々ツ子のやうに小遣錢をねだつて貧しい母を苦しめるのだつた。打ち續く不幸はあの無邪氣で純真だつた少年を別人のやうに荒さませてしまつたのだ。誰かあの一家が廣壯な邸宅にゴルフに興じた日の事を夢と思はぬものがあらうか。それに引きかへ國司の家は貧しいながらも平和だつた。國司は晝の賣上げなどを調べるのに余念がなかつた。留吉は客の肩をもんで各仕事にいそしんでゐた。

或る日、守は不良少年の一團に追はれた。それは彼等が守を手先に使つて悪事

をしやうとしたのを守が肯じなかつたためだつた。

「よくもこんなに骨折らしやがったな」

團長格の一人は荒々しく云ふのだつた。然し、

守は

「僕——そんなことするのはいやだ——」

「貴様がいくら俺の手から逃げようたつて駄目だ」

不良等は鐵拳をかざして威した。守はたゞおどおどしてゐるばかりだつた。その時巡査の姿が見えたので不良等は逃げ出したが、再び守を追ひかけて來た。例の通り顧客先を廻つてゐた國司は、ふとこの光景を見、その途端はからずも探してゐた守の姿を見つけた。

「あッ若様」



國司は直ちに守を追ふ不良少年の後を追ひかけて行つた。そして、格闘の末、少年等を皆追ひ散らして國司と守は守の家に歸つた。二人は村松夫人に一部始終を語つた。國司村松母子の喜びは如何ばかりだつたらう。村松母子も心から楽しく喜び合ふことが出來た。三人は一別以來のことを語り合つた。國司は父が心苦しく思つてゐることや、主家のことを心配してゐることなどを話した。そして母子に自分の家に來ることを勧めた。

きつと探して家に連れて來ると云つた國司の願ひはかなへられて

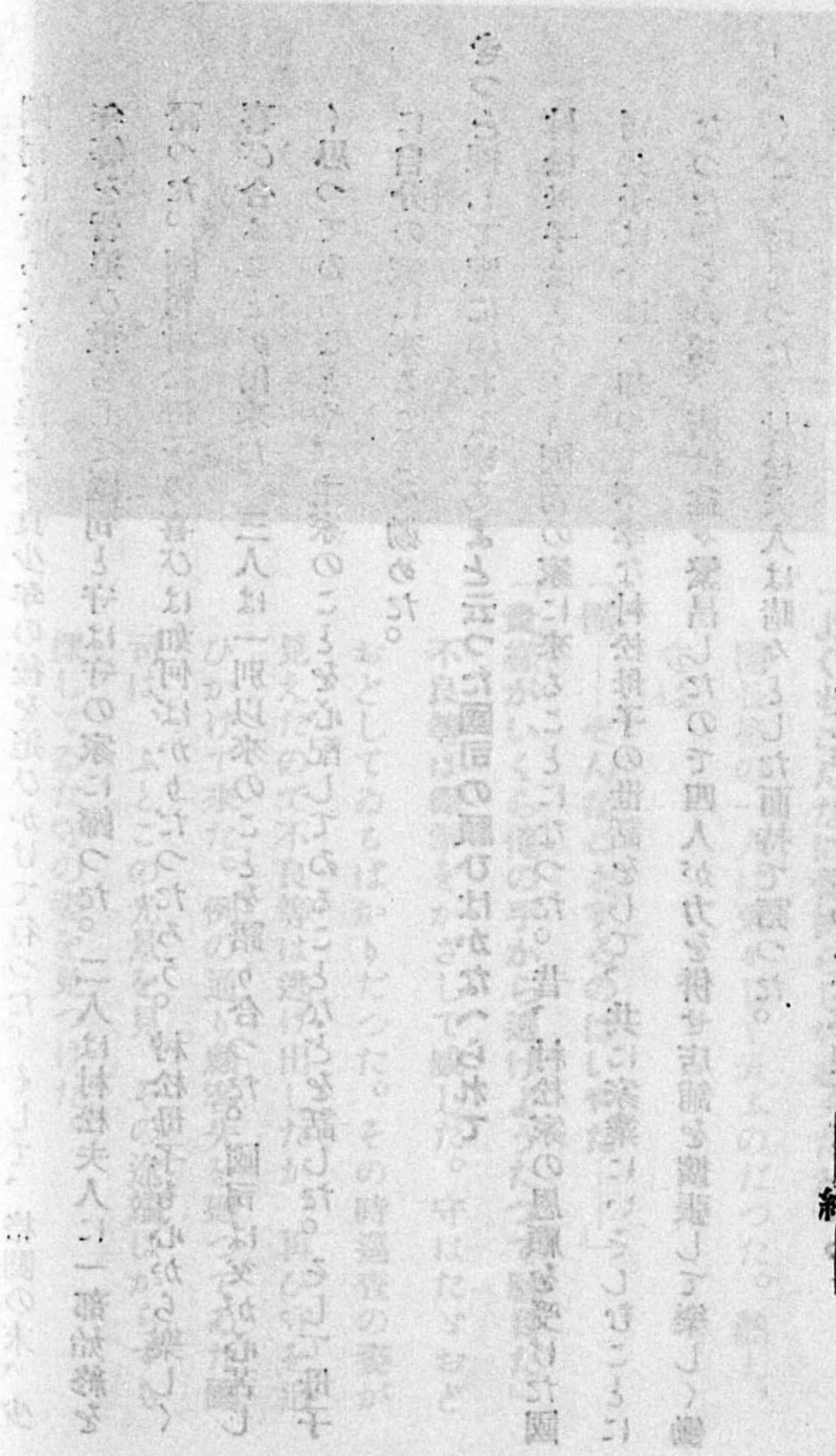
村松母子はとうとう國司の家に來ることになつた。昔、村松家の恩顧を受けた國司父子は今、却つて不幸な村松母子の世話をして、共に家業にいそむむことになつた。その爲、店は益々繁昌したので四人が力を併せ店舗を擴張して楽しく働くことになつた。村松夫人は晴々とした面持で語つた。

「私國ちゃんのお蔭でほんとうに明るい氣持ちになることが出來ましたわ」

人生の幸福とは決して富や名譽ばかりではない。貪しくとも自ら働き、扶け合ひ

愛し合つて楽しく生くる者にこそ、眞の喜びはあるのだ。こゝも自ら働き、汗を合心

終



五一ちいさん

全一卷

この映書は、小學讀本中の「五一ちいさん」と「猿の裁判」から取つて脚色し、山本早苗氏に委嘱して製作したもので、前後の五一ちいさんが子供達に話をする部分は、實體映書として撮影し、中間の猿の裁判の話の部分を描書として編輯した教育漫畫である。

内容

(太字はタイトル、細字は説明字句)

五一ちいさん

村はづれの山の麓に、小さな水車小屋があります。五一ちいさんはこの水車小屋の主です。爺さんは今日も朝から鼻唄を歌ひながら仕事をして居ります。

仕事なされよ きりくしやんと

かけたたすきの きれる程

五一ちいさんは、お話が上手なので村の子供達の間で人気者でした。今日も村の

子供が二三人、五一ちいさんの面白い話を聴かうと、畔の小路を水車小屋の方へ走つて來ます。

「今日も五一ちいさんからお話を聞かうよ」

子供達は語り合ひながら走つて來ましたが、やがて立止つて、大聲で呼びました。

「五一ちいさん」

「お爺さんは小屋から出て、いつものやうににこ〜しながら子供達を迎へまし

た。

「今日も面白いお話をしてきかせて下さい」

子供達にせがまれるまゝに、お爺さんは快く頷いて

「それでは、お米のつけるまで何か話してやらうかな」

子供達は大勢集つて來ました。お爺さんは子供達を近くへ呼び寄せて

「桃太郎のお話はどうだ」

子供達は、桃太郎の話は既に聞き飽きてゐるので他の話をせがみました。

「では、カチカチ山にしようか」

「子供達はそれも知つてゐるので、何か新しいお話をとせがみました。お爺さんは

それでは

「二匹の犬のお話をしてやらう」

と云つて、面白おかしく話しはじめました。同志のことごとく中々簡單にお話

むかし むかしある處に

一匹の犬がゐました、犬は食物を探して方々歩いて居りますと、彼方からも一匹の犬がやつて來ました、やがて、二匹の犬は一片の肉を見つけました。

「何をするのだ」「何をするのだ」

二匹とも慾張り犬ですから、見つけた肉について喧嘩をはじめました。

「肉はおれがかぎつけたのだ」

「馬鹿を言へ俺の方が先だ」

「二匹の犬は、互に譲りません、奪ひつ奪はれつ何時になつても果しがつきませ
ん、そこで、一匹が言ひました。

「いつまでけんかをしてもつまらない、おなかもす
いたから肉を分けようぢやないか」

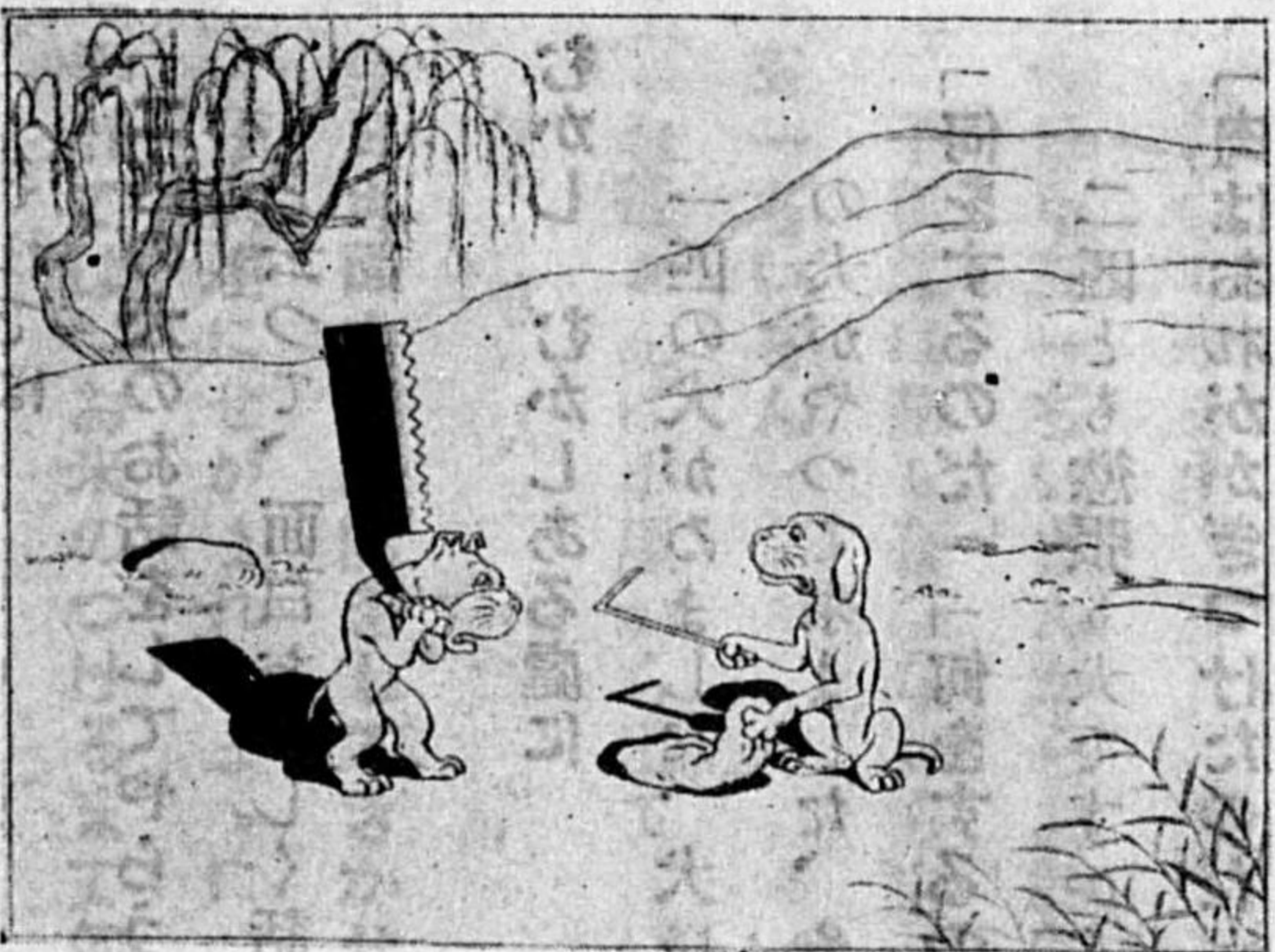
他の犬もすぐ賛成しました。

「よし 分けよう」

「おい 何か切れ物を探して来い」

分けることにはなつたが、いざ實行するとなら
と、慾張り同志のことですから中々簡単には決
りません。

「貴様が番をして居るのは甚だ危険だ、肉を持つて



「しよに行かう」

「やがて、二匹の犬は物指と鋸を探して来て肉を二つに切つて分け合ひました。然

し

「俺の肉の方が少い」

「さうぢやない、お前の方が大きい」

互に相手の持つてゐる肉の方が自分のより大きく見えるのです。とうとう二匹は
「では取りかへをしよう」

といふことになつたのです、然し、取換へて見るとやつぱり相手の持つてゐるも
のゝ方が大きく見えるのです。

「どうも、その方が大きいやうな気がする」

何遍取換へて見ても同じです。

そこで白犬と黒犬は肉片のどちらが大きいか智者の猿に調べてもらふ事にした。

二匹の犬は猿の所へ行つてこれまでの事情を話しました。そして

「何分よろしく願ひいたします」

「目狡猾な猿は如何にもしかつめらしく領いておこ、目大さ指のて身から」

「目で見ただけではどちらが大きいかわからない、目方を計つてやらう」

と云つて、大勢の仲間を呼び如何はしい秤を作つて二片の肉を秤にかけました、そして

「右の方が少し重い」

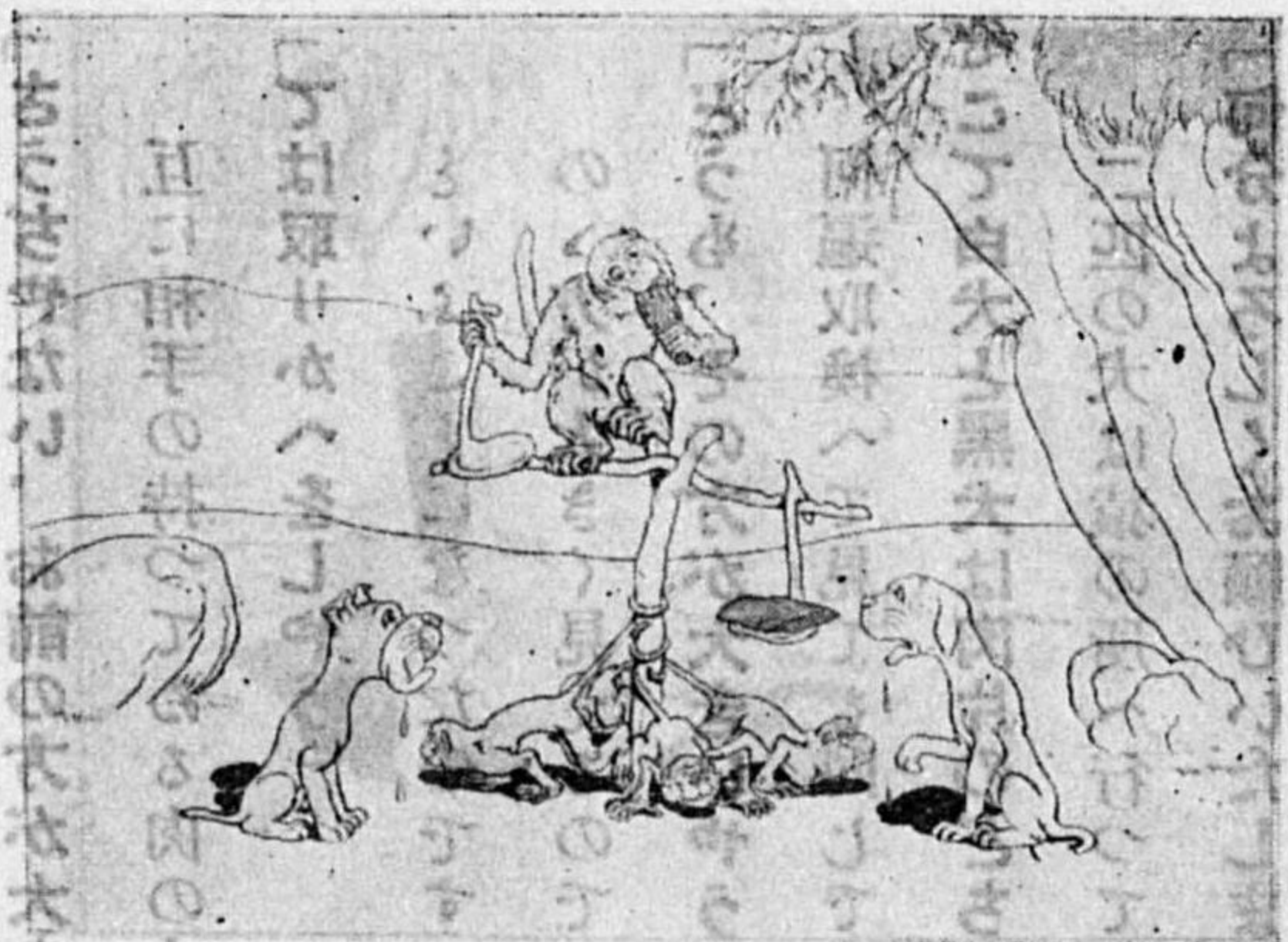
と云つて右の肉を一口食ひ、

「これでは又こちらの方が重くなつた」

と云つて今度は左の肉を食ひ

「又右の方が重くなつた」

と云つては、仲間の猿に分けてやり、肉はだん／＼小さくなつてしまひます。二匹の犬はお腹が空いてゐるのですが、自分達の肉を食べる譯



動に行かないのです。そこで

お願いは取り下げます、我々のものが公平になる時は何もなくなる時だ。

といつてやうやく肉を返して貰ひました。二匹の犬は再び自分達の手に戻つた小さな肉片を眺めて涙を流してももう追いつかないのです。犬は今更ながら馬鹿なことをしたと後悔しました。そこで

「どうだわかつたか、よくばるとおたがひにそんをするんだぞ」

と五一爺さんは話を結びました。子供達は面白いお話を聞いたので、喜んでお禮を云つて歸つて行きました。五一おいさんは子供達を見送つて、又仕事にとりかゝりました。

仕事なされよ きり／＼しやんと

かけたたすきのされる程

水車小屋からは相變らず米を搗く音に交つて五一おいさんの唄聲が聞えます。

終

教育映畫の興行場進出問題

橋 高 廣

特種の地域に位置する、教育映畫専門館であつて、全プロを教育映畫で組むで興行して呉れたら、別に問題はない譯であるが、児童中心、または青年中心の特種映畫興行さへ、一般的には行はれて居ない今日、假令之れは理想には距離のあるものであつても、教育映畫の方から普通常設館へ特種的に進出して行くことは、傍觀的態度を執つて居るよりも遙によい事であるかも知れない。

教育映畫の興行場進出問題は、教育映畫の興行價值有無によつて決せられるべき問題であらう、そして興行價值と云ふものは、教化價值とは正反對のものであらうかと考へざるを得ない。過去の實例によつて見ると、興行映畫で成功した教育的映畫は澤

山に在る。「グラス」 「チャング」の如き實寫映畫、動物映畫と謂はれるものはこれである。だから所謂教育的映畫には絶対に興行價值はないものであると斷言は出來ない。ヘタな商賣映畫娛樂映畫よりも却つて、興行的に成功した事例が多いのでないかと思つて居る。

開き直つて言ふ程の事でもないが、興行價值の有無と云ふ事は、その映畫の持つ、觀客吸引力、ドロウイングパワーのあるなし、あればどの程度のものかを測定する事であるが、映畫興行者は吸引力なるものに對して、傳統的な見方をして居る。吸引力は、性的魅力、煽情的なもの、戀愛物語であり、犯罪映畫であり、メロドラマであり低劣俗悪そのものであると解し、吸引力の最大限は檢閲を漸くパスした所にある。檢閲をパスするかしないかの、極めてデリケートなラインがある。其處に絶大な興行價值を發見しやうとする。それは興行が出来るだけ觀客層を擴く持たなければならぬ關係から、自然にさうならざるを得なかつたのであらう、けれども吸引力をエロ、グロ、

クルックそのものであり、無闇矢鱈にエキサイティングでなければならぬとか、非常識に誇張したり、非道德的な所に、興行価値が発生するのであるなぞと、考へて居るとしたら、精確に興行価値の再吟味をして貰ひ度く思ふ。結局之れは、観客の要求に對する、推定から來るのであるが、敢へて小數階級、知識階級と謂はなくても、心持上向になつて考へて見れば解る筈のものである。下層へ、低級へ、ドン底へとばかり興行映畫そのもの、品性を卑踐視するからである。

つまり健全な内容のものであつても、吸引力を持つ場合がある。科學小説の映畫化探險記の映畫化はどうであつたか、女優の餘り出ない殆んど男女性的關係を取扱つて居ない「ボーヂェスト」の如き映畫があつたではないか、「四枚の羽根」はどうであつたか。

「トウルクシブ」は日本でこそ興行映畫として取扱はれて居るが、實際は、露西亞政府が事業紹介の宣傳映畫でないか、「古きものと新しきもの」は農業改善——トラク

ターの宣傳映畫ではないか、全く皮肉な現象であつて、是等數本のロシア映畫によつて所謂興行映畫ファンが俄然向上したとは言へないが、映畫的表現技巧の如何も吸引力の一つに數へらるべきであつて、内容の問題以外に、映畫技巧問題を忘れてはならぬ。そして、所謂寫映畫の吸引力に就いては、既に述べた通りであつて、映畫興行者自身が、自己の社會的勢力の偉大なことを反省して見たら、吸引力に對する從來の考へ方が餘り狭く考へ過ぎて居たことが判るだらうと思ふ。

如何に教育映畫の吸引力を高潮しやうとしても、學校映畫、教材映畫と云つたものの中から、常設館上映映畫とした場合の吸引力は烏渡考へものである。けれども社會教育映畫となると、興行映畫製作態度の讓歩によつて既に幾多の經驗を持ち合して居る筈である。これは映畫宣傳に對して、官公署方面が映畫を理解して來た故もあるが、其邊に社會教育映畫の萌芽があるのでないかと思ふのである。つまり、エロヌキグロヌキ、所謂清新な映畫でも、お客を呼び得る力があるものであることを知つて居

る筈である。

映畫の中に醸成される現代なく、あるがまゝの現代人の生活の中から、問題をピツクアップして、これを上手に取扱へば、公私經濟の緊縮と云つた、やかましい問題映畫でも興行映畫並に見て呉れる人があるのではないか。

○その外に、ニュース映畫が如何に歓迎されて居るか、誰もよく知つて居る事實である。アメリカの映畫會社は、極端に言へば政府御用を勤めて居るのではないかと思はれる位に、國策實行を援助する爲めの映畫を製作する場合がある。即ち、時事問題は現代人を引き寄せる、無條件で、絶大な吸引力を持つて居る。唯だ從來は、大泥棒とかが心中とか、駆落とか云つた、所謂興行價値を發揮するのに都合のよいものばかりから、題材を採るから、宜しくないのである。換言すれば、社會人の視聽を集めて居る時事問題の映畫化は、啓蒙的、解説的に取扱つてこそ面白いものになるのではないかと思ふ。其處に健全な吸引力が生れて來るのである。

のみならず、映畫興行者の經驗家は、興行宣傳戰術が巧妙であつて、少しのキツカケがあれば、觀覽慾を遺憾なく挑發することを知つて居る筈である。文字通り打てば響くの、機敏さを持つて居る。ですから所謂既稱教育映畫の如き、從來の興行映畫に比較すれば、エロ不足、グロ不足であるかも知れないが、スターシステムによるとか原作者名によるとか、ロケーションによるとか何とか彼とか、吸引力を人爲的に附加することが出來ると思ふのである。宣傳術の巧智は左様な場合を於てさへ證明されると謂はなければならぬ。

斯様な譯で、教育映畫と云つたら、納豆賣の孝行息子の物語であり、お説教映畫であり、修身映畫であると云つた、時代遅れの考へ方を取り去つて、社會教育映畫と云つたものの中には、從來の興行映畫では見られない、特種の吸引力があることを悟つて、行き方の變つた宣傳戰術を實行したら、充分興行價値が発生して來るものと信ずるものである。だから、ア、教育映畫か、つまらぬ映畫であると、一蹴することなく

して考へ直して貰ひ度く思ふのである。

關西で、活映教育大會のあつた際に、學術映畫を常設館に上映しろとか云ふ話があつたそうだが、いづれブレイ映畫程度のもを意味するものであらうと思はれるが、地理の參考となる様な、風景映畫を手輕に取扱ふ習慣がついて居る、説明者にこの説明を委して置く場合には、折角科學知識の普及といつた様な、所期の目的は達せられないかも知れない。何にも、學術映畫に限らぬが、教育映畫が映畫館へ進出可能であつても、説明其他の注意を怠つたり忘れたりした場合は、結果に對して大なる希望を持つ譯には行かないであらう。

之れは原則としては、一映畫には貫徹した中心思想がある譯だが、解説する人によつて、その中心思想がマゲられるし、之の反對の意味に取られないとも限らない。最近の實話に斯様なものがある。滿洲に於ける鐵道守備隊の活動を映畫化したものがある。無論馬賊征伐などが出て來るのであるが、或人は曰く、現在の滿洲が、相變らず馬賊が出没すると云ふ印銘を觀客に與へて、旅客がなくなるだらう、この映畫は南

滿鐵道の宣傳映畫としては不適當である云々、所が、反對論者曰く、馬賊が出没することがあつても、日本陸軍の守備隊が滞在して居る以上は絶対に安全な旅行が出来る。南滿鐵道は世界の最も安全な公道であると云ふ印象を與へると思ふ云々、この話は宣傳映畫と限らず、教育映畫の場合に於ても、起りさうなことであつて、教育映畫進出と同時に考ふ可き問題である。

次に、興行場へ持ち込む可き教育映畫が、供給難であつた場合に、所謂興行映畫を教育的に改訂する便法であることも知つて置いてよいことである。ダグラス・フェアバンクスの主演「ロビンフッド」に、ある程度の切除を加へて、「ナイトフッド」と云ふ歴史映畫を製作したと云ふ話がある。マコト、維新幕末劇などで、史實に忠實なものがあれば、上述の便法によつて、如何様にも歴史教育映畫化が出來やうと思ふ。だから、既成品から、新しい教育映畫製作は出來る相談であつて、教育映畫は新しく製作する可きものだと、思詰める必要は更にないのであると言ひ度い。勿論訂正増補

の實行者は教育界から選ばれた、權威者の手によつてなされる可きであり、映畫製作者としては、古い映畫の更生のために、多少の經費を要した所で、次の機會に於て、早速物質的にも酬られるのであるから、問題はないであらうと思ふ。

映畫業者が、教育映畫には、從來の興行映畫とは違つた、興行價值のあることを知つたら、社會教育映畫の如きものゝ上映は、大に有望であることは前述の通りであるが、更に、教育映畫が、その主旨を滅却しない限度に於て、敢へて興行映畫的とは言はない。清新な娛樂映畫、無害映畫の程度にまで、妥協して製作することは、過渡時代の對應策としてよいのではないかと思ふ。

興行者が教育映畫が持つ、新しい興行價值を宣傳して呉れる、大衆はそれに相呼應して漸次教育されて、エロやグロや以外にも、映畫の面白味はあることを經驗する様になり、時日が経過するに従つて、教育映畫上映の道はハッキリとして來る譯である。兎に角、急激には行かない問題で、根氣よく、最善の努力を盡せば、必らず到達

される、理想の世界である

x

何時か、日本青年館で開催された、文部省推薦映畫大會の如きも、映畫趣味の向上を圖る意味に於て、格別の意味があつたことと思つてゐるが、斯様な催しは度々開催することが必要である。そしてその機會に於て、推薦映畫はツマラヌものであると云ふ世評を打破することである。斯様にして文部省推薦を愛好する習慣が、一般人の間に行はれて來たら、業者は積極的に推薦を要求する美風を作り、教育映畫が一般常設館に上映されたからと云つて、不思議がることもなくなり、俗悪興行映畫を業界から驅除することも容易に出來やうと思ふ。而して、推薦制度創定當初、推薦映畫の賃貸料が馬鹿値を出した過去を顧みて、その將來は明るいものである。

x

民間教育映畫専門業者以外に、最近一般娛樂映畫製作業者の中で、自稱教育映畫と云ふものが續出する傾向が著しく目立つて來た。其等の教育映畫が如何なるものであ

るかは知らないけれども、娯楽映畫と共映することは無論のことであらう。斯様な場合、當業者は當局者の指導を受ける必要があり、當局者には之を善導する深切があつてよいのである。既に指導されつゝあることゝ思ふが、興行映畫脚本に、センサープループが必要ある様に、教育映畫にはエヂュケーショナルブループがあつてよく、事情が許すならば、實地出張指導にまで手を延してもよい譯のものである。

誰の手によつてもよいから、教育映畫が多量に生産されることは、映畫界の淨化が自然に行はれることゝなるので、最早議論時代は過ぎて居り、實力發揮時代になつて居るのであるから、種々な有形無形の助長政策が行はなければならぬ。

要するに、新時代の教育映畫の精神をよく理解して來れば、教育映畫を興行館へ上映することは決して理想ではない、現實に於て解決する問題である。

一六、四、三〇―

三重縣映畫教育協會の設立 (三重縣報告趣意書抜抄)

一、設立趣意

活動寫眞は今や單なる娯樂機關としてのみならず教育上重要な施設として認められるやうになつて來まして、教育の仕事を爲す上に於て是非考へなくてはならぬ緊切な問題となりました。そして時代は已に「映畫の國民思想に及ぼす影響」とか「映畫の教育的價值」とかの詮議期を經過して映畫教育實施上の問題を云々する所謂實行期に入つてゐるのであります。

斯うした時代の大勢的推移は本縣教育界に於ても如實に示され已に本年三月本縣主催映畫教育講習會の席上に於て「本縣映畫協會設立の必要を認めこれが實現方を縣當局に依頼すること」が萬場一致を以て決議されてゐますが、此の一事を見ましても如何に映畫教育振興に關する機運が醸成せられてゐるかを知らざる事が出來ません。

本縣當局に於ても亦この問題に付ては夙に考慮を拂ひ種々の施設を講じ、其の普及

發達に力を致してゐるのでありますが、その性質上經費を相當多額に要する爲、牛歩遅々たるの觀を免れないのは甚だ遺憾とする所であります。そこで今回斯うした時代の推移と映畫教育の現状とに顧み茲に三重縣映畫教育協會を設立し斯教育の促進向上に資すること、致しました。幸に左記事項御熟讀の上本會設立の趣旨に御賛同せられ教育教化の振興に寄與する様努力せられんことを切望する次第であります。

追而本會の實際活動に就きましては相當参加口數を要する次第でありますから可成多數御申込の程特に希望致します。

二、規約概要

一、事業

1. 「フィルム」ノ購入及製作
2. 映寫會ノ開催
3. 「フィルム」ノ貸與
4. 映畫教育ニ關スル調査研究

5. 其他映畫教育上必要ナル事項

二、加入資格

營利ヲ目的トセザル者ハ學校、團體、個人其他何人ニテモ加入スルコトヲ得

三、會費

會費ハ一口年額金貳拾五圓トシ幾口ニテモ加入スルコトヲ得
會費ハ毎年四月中ニ納入スルヲ要ス但本年度ノ會費ハ一口拾貳圓五拾錢トシテ納入時期ハ別ニ之ヲ指定ス

四、會員ノ利益

會員ハ會費一口ニ付毎年度二回無料ニテ巡回映寫ヲ受ケ又ハ無料ニテ三十六卷「フィルム」ノ使用ヲ爲スコトヲ得、但本年度ハ會費半減ノ關係上巡回映寫ハ一回「フィルム」ノ使用ハ十八卷トス

五、映寫ニ要スル經費

巡回映寫ニ要スル經費中電燈料並映寫機及「フィルム」ノ運搬費ハ映寫ヲ受クルモ

ノニテ支辨スルモノトス
六、特別映寫及「フィルム」ノ貸與
會員ガ加入口數ノ制限ヲ超エテ映寫ヲ希望シ又ハ「フィルム」ノ使用ヲ希望スルト
キハ左ノ料金ヲ以テ之ニ應ズ

- 一、特別映寫「旅費實費及「フィルム」料（一卷一日八拾錢ノ割）
- 二、特別映寫「フィルム」料（一卷一日八拾錢ノ割）
- 三、特別映寫「フィルム」料（一卷一日八拾錢ノ割）
- 四、貸與「フィルム」一卷一日ニ付八拾錢

會員以外ノ者ニ對シテモ本會ニ支障ノ無キ場合ハ特別映寫及「フィルム」ノ貸與ヲ
爲スコノ場合ハ左ノ料金ヲ徴ス
一、特別映寫 旅費實費及機械損料四圓並ニ「フィルム」料（一卷一日壹圓ノ割）
二、貸與「フィルム」一卷一日金壹圓

特別映寫ノ電燈料機械及「フィルム」運搬費貸與「フィルム」運搬費等ノ支辨ハ第
五ニ準ス

旅費實費ハ其ノ都度算出通知シ本會ニ拂込マシムルモノトス

七、加入申込方法

別紙申込書ニヨリ十月三十一日迄ニ三重縣教育課内三重縣映畫教育協會宛申込ミノ
コト事情ニ依リ單獨ニテ加入シ得ザル場合ハ例令隣接町村、學校或ハ一市町村内ノ
各種團體等ガ聯合シテ加入スルモ差支ヘナシ

八、申込承諾

申込後本會ヨリ承諾書ヲ送付ス
（一）知事承諾書
（二）知事承諾書
（三）知事承諾書

（二）

金澤市教育映畫協會の事業概況

（昭和六年六月四日）
（石川縣報 告）
一、昭和五年度事業ノ概要
（一）映畫會

(一) 各校巡回兒童映畫開會催九回(八、九、三月ヲ除ク)

1. フィルムハ大阪毎日新聞社又ハ岡本洋行ヨリ供給ヲ受ク。

2. フィルムハ主トシテ教訓、實寫、漫畫等毎回五卷乃至七卷位トス。

3. 映寫技術ヲ除ク設備解説音楽等ハ學校職員之ニ當ル。

(二) 研究調査

バッテリー機及十六ミリ機ノ試寫研究會並映畫觀賞會ヲ開催スルコト各二回

(三) 映寫機及映畫ノ購入

十六ミリ映寫機二臺、十六ミリ映畫十種十卷、三十五ミリ映畫五種十卷。

一、昭和六年度事業計畫

(一) 各校巡回兒童映畫開會十回 (八、三月ヲ除ク)

(二) 研究調査

1. 十六ミリ教材映畫ノ研究ト實地教授ニ於ケル研究

2. 教材トスベキ「フィルム」ノ豫定

3. 撮影技術ノ研究

4. 映畫研究會ノ開催

5. 映畫教育視察員ノ派遣

(三) 機具及映畫ノ購入

十六ミリ映寫機二臺、十六ミリ撮影機一臺

十六ミリ及三二ミリ映畫數卷

三、所藏映寫機並フィルム

三十五ミリ映寫機 二臺

十六ミリ映寫機 二臺

三十五ミリフィルム 五種 十卷

十六ミリフィルム 十種 十卷

宇都宮児童教育研究所

宇都宮兒童映畫デー上映フィルム

四六

- 昭和五年五月 進軍、龍卷長屋
同 六月 空中世界一周、鹽原多助
同 九月 撃滅、熊本城非常警報
同 二〇月 落花飛炎録、勘太と久太、ニユース
同 一二月 テンピ、草に祈る
同 一二月 少年戦線、團子串助漫遊記
昭和六年一月 バード少將南極探險、常陸丸
同 二月 地上に愛あり、偉人リンコロン
同 三月 涙の道化師、美シキ愛、軍用鳩、水馬練習
同 四月 (中等學校) アジアの嵐、ニユース
(小學校) 一心多助、愛ノ淨火、動物オリンピック

改訂「茨城縣映畫目錄」の刊行

茨城縣學務課に於ては、昨年五月編纂の「映畫目錄」を増補改訂して、最近「社會教育資料第四輯」として刊行した、輯録のフィルムは全縣下の官衙・學校、各種團體等の所有のものにして總數百二十一種に上り、他に所有映寫機の名稱及び數も登載せられてゐる。

映畫目錄は映畫の所在を示す字引にして、映畫利用者にとつていかに必要なるかは云ふ迄もないが、同時に映畫利用者相互間の連絡の綱ともなり、教育映畫振興上極めて重大な役割を帯びるのである。その爲に文部省に於ても一昨年より「教育映畫目錄」の編纂に着手し昨年初て刊行し、その後改訂を進め完全なる「日本教育映畫目錄」を完成せんと努めつゝあるが一方地方に於てもそれ／＼必要の範圍に據り「映畫目錄」を編纂することは映畫教育發達の現狀に鑑て極めて緊要である。

四七

文部省製作活動寫眞「フィルム」頒布規程

文部省製作活動寫眞「フィルム」頒布規程（昭和三年文部省告示第三百四十二號）

第一條 文部省ニ於テ製作シタル活動寫眞「フィルム」ハ本規程ニ依リ之ヲ頒布ス
第二條 頒布セムトスル「フィルム」ノ名稱、内容、價格及出願期日等ハ其ノ都度官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三條 「フィルム」ノ頒布ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨文部省ニ申請スヘシ、但シ皇室ニ關スル「フィルム」ニ付テハ官衙、學校、圖書館、博物館、公共團體、新聞社、通信社及雜誌社ニ限り申請スルコトヲ得

第四條 「フィルム」ノ頒布ヲ申請セムトスルトキハ皇室ニ關スル「フィルム」ニ付テハ別記第一號様式ニ依リ其ノ他ノ「フィルム」ニ付テハ別記第二號様式ニ依リ申請書ヲ文部省ニ提出スヘシ前項ニ關シ必要ト認メタル場合ハ申請者ノ身分等ニ付當

該市町村長ノ證明書ヲ添付セシムルコトアルヘシ

第五條 「フィルム」ノ頒布ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 皇室ニ關スル「フィルム」ハ營利ノ目的ヲ以テ使用セサルコト
- 二 皇室ニ關スル「フィルム」ハ第三條但書ニ掲クル者ニ對スル外之ヲ讓渡又ハ貸與セサルコト
- 三 皇室ニ關スルフィルムハ特ニ保管ニ注意シ滅失又ハ盜難ニ罹リタルトキハ其ノ顛末ヲ詳記シ直ニ之ヲ文部省ニ報告スルコト

第四條 複製改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘサルコト

第五條 「フィルム」ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ト連署シ其ノ旨遲滞ナク文部省ニ報告スルコト
前項第一號乃至第四號ハ「フィルム」ノ讓渡ヲ受ケタル者又ハ貸與ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第六條 頒布スル「フィルム」ハ代金ヲ納付シタル後之ヲ交付ス

代金ハ納入告知書ニ依リ日本銀行又ハ最寄日本銀行支店若ハ同代理店ニ之ヲ納付ス
ヘシ

附 則

大正十二年文部省告示第四百二十九號皇室ニ關スル活動寫真「フィルム」頒布ニ關ス
ル件ハ之ヲ廢止ス

本規程施行以前ニ於テ頒布ヲ受ケタル「フィルム」ニ付遵守スヘキ事項ニ關シテハ仍
從前ノ例ニ依ル

別 記

第一號様式

皇室ニ關スル活動寫真「フィルム」頒布申請書

一 フィルム名稱

昭和三年文部省告示第三百四十二號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付右御頒布相成度

年 月 日

申請者

住所

名

文部省

第二號様式

活動寫真「フィルム」頒布申請書

一 フィルム名稱

昭和三年文部省告示第三百四十二號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付右御頒布相成度

年 月 日

申請者

住所

氏

名

文部省

文部省製作活動寫眞「フィルム」貸與規程

文部省製作活動寫眞「フィルム」貸與規程（昭和三年文部省告示第三百四十三號）

第一條 文部省ニ於テ製作シタル活動寫眞「フィルム」ハ本規程ニ依リ之ヲ貸與ス

第二條 貸與セムトスル「フィルム」ノ名稱、内容、使用料及出願期日等ハ官報ヲ以

テ之ヲ公告ス

第三條 皇室ニ關スル「フィルム」ハ公益ノ目的ノ爲ニ使用スル者ニ限り之ヲ貸與ス

第四條 「フィルム」ノ貸與ヲ受ケムトスル者ハ別記様式ニ依リ申請スヘシ但シ必要

ト認メタルトキハ申請者ノ身分等ニ付當該市町村長ノ證明書ヲ添付セシムルコトアルヘシ

第五條 「フィルム」ノ貸與ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 轉貸セサルコト

二 保管ニ注意スルコト

三 複製改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘサルコト

四 滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ顛末ヲ詳記シ直ニ之ヲ文部省ニ報告スルコト

第六條 「フィルム」ハ使用料ヲ納付シタル後之ヲ貸與ス

使用料ハ特別ノ事由アリト認メタルトキハ之ヲ免除スルコトアルヘシ

貸與シタル活動寫眞「フィルム」ノ荷造運搬等ニ要スル費用ハ被貸與者ノ負擔トス

第七條 貸與ヲ受ケタル「フィルム」ノ使用期間ヲ經過シタル後尙現品ノ返還ヲ遲滯セル場合ハ使用料ヲ追徴ス

第八條 貸與ヲ受ケタル「フィルム」ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ハ被貸與者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ但シ其ノ損害カ被貸與者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ依リテ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 使用料及賠償金ハ納入告知書ニ依リ日本銀行又ハ最寄日本銀行支店若ハ同代

理店ニ之ヲ納付スヘシ

第十條 貸與シタル「フィルム」ハ本規程ニ違背シタル行爲アリト認メタル場合ニ於

テハ貸與期間中ト雖之ヲ返還セシムルコトアルヘシ
 第十一條 一旦納付シタル使用料ハ理由ノ如何ニ拘ラス之ヲ還付セス
 別記様式

活動寫真「フィルム」貸與申請書

昭和三年文部省告示第三百四十三號所定ノ事項ヲ遵守スヘキニ付左記ノ通「フィルム」御貸與相成度

- 記
- 一 フィルム名稱
 - 一 使用ノ目的
 - 一 使用ノ期間
 - 一 使用ノ回数
 - 一 使用ノ場所
 - 一 映寫機名稱

一 映寫技師ノ職氏名

一 説明者ノ職氏名

年 月 日

申請者

住所

職名氏

名

文 部 省 宛

文部省製作活動寫真「フィルム」貸與規程實施ニ關スル注意

- 一、「フィルム」ノ貸與規程ハ昭和三年七月六日官報告示欄ニアリ
- 二、貸與申請書ハ使用期日ヨリ一週間以前ニ本省ニ到着スル様差出スコト
- 三、「フィルム」ノ貸與申請者ハ使用場所ノ都合ニ依リ適宜受取場所ヲ指定スルコトヲ得(但シ申請書末尾ニ明記ノコト)
- 四、貸與「フィルム」ノ運送ハ鐵道便(客車便)ニ依ルチ原則トシ、往復ニ要スル日數ハ使畢期間ニ算入セス
- 五、「フィルム」ノ荷造費並ニ往復運賃ハ貸與申請者ノ負擔トス

文部省製作活動寫眞フィルム一覽

(○印貸與をもするもの)

フィルム名稱	卷數	米數	頒布價格
○關東大震大火實況	5	1,180 ^米	472.00 ^円
○皇太子殿下御成婚の御儀	2	545	218.00
○東宮同妃兩殿下神宮並山陵御參拜	3	815	326.00
○秩父宮殿下立山御登山	2	452	180.80
○觀菊會	2	365	146.00
皇太子殿下葉山海岸御水泳	1	200	80.00
○運動競技の分解	2	565	226.00
○女子の運動	2	545	218.00
○麗はしき「日光」	2	412	164.00
納税美談「北國の少年」	2	335	134.00
○皇后陛下御飼育の養蠶場	1	238	95.20
○御渡歐の秩父宮殿下	1	285	114.00
○日本アルプス縦走	2	518	219.20
○皇太子殿下樺太行啓	2	435	174.00
北海の奇觀「海豹島」	1	262	104.80
○北方の富源「樺太の産業」	1	310	124.00
○復活せる早慶野球戦	1	305	122.00
○帆走練習の大成丸	1	164	65.60
○故郷の歌	5	1,145	458.00
○日本三景「安藝の嚴島」	2	425	170.00

- 六、「フィルム」ノ發送並返送ノ際ハ同時ニ電報ヲ以テ送付期日等ヲ通告スルコト
- 七、「フィルム」ノ受取並返戻ノ際ハ責任者ニ於テ充分検査スルコト
- 八、「フィルム」ノ返送ニ就テハ
- イ、「フィルム」ハ卷返シヲ要セス
- ロ、荷造ハ本省ヨリ發送ニ做ヒ「フィルム」ヲ損傷セサル様取扱フコト
- ハ、添付ノ説明臺本ハ必ス「フィルム」ト共ニ返送ノコト
- ニ、宛先ハ『東京市麹町區大手町一丁目七文部省普通學務局社會教育課』トスルコト
- 九、貸與ヲ受ケタル「フィルム」ハ少クモ申請書記載ノ使用期間満了ノ翌日中ニ發送セサルトキハ發送ノ期日迄ノ期間ニ對シ規定ノ使用料ヲ追徴ス
- 一〇、使用料ハ本省ヨリノ送附スル納入告知書ニ依リ納入スヘシ
- 但シ特ニ「フィルム」ノ使用急ヲ要スル場合ハ豫メ郵便爲替ヲ以テ前納スルコトヲ得
- 一一、「フィルム」ノ貸與ニ關スル問合せハ文部省社會教育局庶務課宛ノコト

フィルム名稱	卷數	米數	頒布價格
鍬の光	4	990	396.00
陸上競技	3	895	358.00
病毒の傳播(線畫)	1	310	124.00
日本三景	1	285	114.00
我國の農業	2	548	219.20
動物界の母性愛	1	289	115.60
我が南洋	6	1,680	672.00
黒部峡谷探險	2	580	232.00
七つの夢(線畫)	2	610	244.00
十和田湖探勝	1	267	106.80
女子の體育	1	290	116.00
乳兒の榮養	1	305	122.00
蛙	1	275	110.00
うみねこの蕃殖地「蕪島」	1	280	112.00
冬のスポーツ	1	247	98.80
○ポートとその漕ぎ方	1	200	80.00
悠紀主基齋田御田植祭	1	205	82.00
劍岳	2	365	146.00
御大禮の御儀	2	595	238.00
悠紀主基齋田拔穂式	1	203	81.20
閑院宮殿下御親閱 <small>京都府 青年訓練 學校教練</small>	1	165	66.00
十二指腸蟲の發育と其の感染經路	2	550	220.00
人體寄生蟲と其の中間宿主	2	530	212.00

フィルム名稱	卷數	米數	頒布價格
子供の育て方	2	590	236.00
○傳染病の病原體	2	420	236.00
○蚊の一生と疾病の傳播	1	263	105.20
○日本三景「雪の松島」	2	454	182.00
○壺(線畫)	1	305	122.00
○我國の製鐵工業	2	470	188.00
○我國の古武道	5	1,240	496.00
情の光	5	1,410	564.00
雪の北越	1	255	102.00
○公衆作法「東京見物」	5	1,270	508.00
○航空船にて復興の帝都へ	1	295	118.00
昔の競技	3	680	272.00
○蠅とその害毒	2	610	244.00
○日本三景「天の橋立」	1	240	96.00
海の生物	2	520	208.00
富士と五湖巡り	2	390	156.00
○奉公美談「父を助けて」	4	1,000	400.00
○第三回汎太平洋學術會議	1	240	96.00
○大正天皇御大喪の御儀	1	305	123.00
婦人の職業「優しき力」	2	575	230.00
○我國の火山	2	610	244.00
○國際親善「人形のお使」	2	455	182.00
この子この親	4	1,000	400.00

フィルム名稱	卷數	米數	頒布價格
櫻	1	152	60.80
石	2	400	160.00
○天皇陛下復興帝都御巡幸	1	258	103.20
昭和の帝都	2	470	188.00
○極東選手権競技大會總裁宮殿下御招待	1	270	108.00
皇太后陛下東京音樂學校行啓	1	260	104.00
○海洋少年團御親閲	1	300	120.00
皇后陛下東京聾啞學校行啓	1	265	106.00
皇后陛下東京盲學校行啓	1	127	110.00
鹿島槍ヶ岳と下廊下	2	495	198.00
ガラスの電話	2	415	166.00
鹽の電話	2	480	192.00
ろば(線畫)	1	290	116.00
禮儀作法	2	515	206.00
全國男女青年代表御親閲	2	360	144.00
明治神宮奉納神事舞	2	385	154.00
○明治の輝	3	630	252.00
○教育勅語漁發四十年記念式	1	200	80.00
御親閲昭和五年二月岡山練兵場	2	430	172.00
鯨	2	475	190.00
水の力	1	200	80.00
北伊豆震災	2	375	150.00
輝く愛	5	1,150	460.00

フィルム名稱	卷數	米數	頒布價格
御大禮觀兵式、特別觀艦式	1	232	92.80
水泳	2	433	173.20
有用動物「牛」	1	285	114.00
體操	1	250	100.00
實業補習教育	3	(都)295 (農)300 (漁)238	118.00 120.00 95.20
魚の國(綿畫)	1	302	120.80
雪國の一日	1	230	92.00
赤石岳	2	545	218.00
駒ヶ岳の爆發	2	488	195.20
天皇陛下關西行幸	2	533	233.20
世界一周飛行ツエツペリン伯號	1	305	122.00
日出づる國	3	790	316.00
覺めよ國民	2	605	242.00
二つの世界	1	30	121.60
第五回明治神宮體育大會	3	845	338.00
御親閲昭和四年十一月水戸堀原練兵場	2	443	177.20
萬國工業會議	2	490	196.00
○御宿御苑	1	213	85.20
忠吉は歸つた(線畫)	1	305	122.00
生きろ力	5	1,430	572.00
幼児の運動	1	228	91.20
皇后陛下東京高等女子師範學校行啓	1	204	81.60

フイルム名称	巻数	米數	頒布價格
タヌ吉のお話(漫畫)	5	295	460.00
陽光を仰ぐ	1	12,00	118.00
五いちいさん(漫畫)	1	300	120.00

映畫に關する事項は
 文部省社會教育局庶務課に
 照合せられたし

終

